

## 平成28年度第2回うらわ美術館協議会会議録

- 1 日 時 平成29年3月27日（月）午後1時30分から午後3時
- 2 場 所 うらわ美術館会議室
- 3 出席者 坂本会長、大久保副会長、石上委員、久米委員、倉林委員、小池委員、  
宮田委員  
稲葉館長、星野副館長、島田主幹兼事業係長、金子係長、町田主事  
\* 栗原委員、先崎委員、久田委員は都合により欠席

### 4 次 第

開会

館長挨拶

議事

- (1) 平成28年度事業報告について
- (2) 平成29年度事業計画案について
- (3) その他

閉会

### 5 議事内容

- 副館長 本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。開会に先立ちまして、館長より御挨拶申し上げます。
- 館長 [挨拶]
- 副館長 それではこれより先はうらわ美術館規則第3条の規定により会長に議事進行をお願いいたします。坂本会長、よろしくをお願いいたします。
- 坂本会長 今から平成28年度第2回うらわ美術館協議会会議を開催します。本日は先崎委員、久田委員、栗原委員が欠席ですが、出席者が7名おり、うらわ美術館協議会規則第4条による会議成立の要件の委員の過半数を超えておりますので、本会議は成立いたします。次に本会議は原則公開としています。事務局に伺いますが、傍聴を希望される方はおりますか。
- 事務局 傍聴を希望される方はおりません。
- 坂本会長 では、お手元の次第に従い、進行をさせていただきます。なお、本日の会議は、午後3時ごろを終了予定と考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります。

議事の「平成28年度事業報告について」の説明を事務局からお願いいたします。

事務局 [平成28年度事業報告について説明]

坂本会長 ただいまの報告について、何かご質問やご意見はありますか。

久米委員 トリエンナーレのことについてよろしいでしょうか。前回の協議会でお話しましたさいたま市在住の市の美術展の審査員級の方たち日本画・洋画・彫刻・工芸・書道・写真の6部、約100名の作品を地元の方たちに見て頂くということで、中央展に出した大きな作品などを埼玉県立近代美術館で約2週間展示をしまして、約3000名の方が見てくださいました。大変好評で、皆さんの御協力あってのことだと思えます。御報告申し上げます。ありがとうございました。

坂本会長 ほかに質問や御意見はありますか。

大久保副会長 ワークショップの多世代交流ワークショップとはどのようなことをやられたのですか。

事務局 今回はSMFというところと共催のような形で「住・衣・食」の「食」を題材に小池委員を講師にお招きして子供からお年寄りまで楽しめるワークショップを午前の部と午後の部の2回行いました。参加者の皆さんに美術に関心を持っていただいたり、自分の創作活動の表現をすることに関心を持っていただけだと思います。小池先生の方から付け加えることがあればお願いいたします。

小池委員 内容については、多世代ということなので小さな子からできれば御高齢の方まで楽しんでいただくということで企画しています。今回はプラスチックダンボールという建築資材を主な材料として、1m80cm×90cmのものに、参加者がペアになりお互いに寝転がってのシルエットをかたどるということを繰り返してオイルパステルなどで色を塗っていきました。ドローイングというか制作のきっかけにいろいろなものを用意しているのですが、形を取り合うということがこちらで思っていた以上に楽しめたようで、かなり集中して楽しんでやっていただきました。そして絵を描き終わったら、そのプラスチックダンボールを半円状に湾曲させて、参加者の組数分だけ数がありますので連結させていき、最後に自分の書いたものを見ながらくぐって遊ぶということをしたのですが、大変楽しいワークショップになりました。

大久保副会長 テーマの「食」というのは「食」に関するものを使ったということではないのですか。

小池委員 美術館では食べ物は使えませんので、アプローチを「色と形のコックさん」として、色や形を調理しようということで行いました。調理となぞらえた

いうところがなかなか良かったようで、御担当いただいている美術館の脇元指導主事に御協力いただき、すごく楽しくできたと思っております。

大久保副会長 上は何歳くらいの方までいらっしゃったのですか。  
事務局 年齢の方は正確な控えが手元にないのですが、御年配の方もいらっしゃったように思います。

小池委員 そうですね。パパ・ママさんが多かったのが30代、40代の方がメインでしたが、お付き添いのおじいさま、おばあさまも数名いらっしゃいました。子どもの心に帰るといいますか、落書きをするという心に戻ったような感じで楽しんでいただきました。

事務局 ありがとうございます。

坂本会長 そういうのは、記録が残るといいように思いますね。せっかく非常にクリエイティブな楽しいものなので。

事務局 SMFの方で記録集という形でありますので、御覧になりたい方は後程御用意します。

坂本会長 それは結構ですね。他に何かございませんか。

石上委員 質問なのですが、情報コーナーのリニューアルについて、私もこの間、見せていただき、なかなか素敵な感じでできていると思ったのですが、ここは利用者の人数は算出しないのですか。

事務局 集計しているのですが、今回の資料には掲載できておりません。展覧会のついでに御利用いただくパターンが多いようですが、今年度につきましては、リニューアルしてすぐということもありますので展覧会がない期間も情報コーナーのために開館している期間が何日かございます。天気などの関係等もあり、来館者の変動はあるのですが、飛び出す絵本ですとか、美術に関心ある方は各地の図録などが見られるコーナーになっておりますので、長い時間滞在されている傾向があるようです。特に、お子さんがいらっしゃると長い時間見て楽しんでいただいているようです。

石上委員 図録が地域別に配架されているとか、ポップアップが触れられたりとかすごくいいなあと思ひまして、あまりたくさん来られても困ってしまうのかもしれないのですが、例えばホテルに泊まっている方にも利用してもらえるように広げていくといいのかなあと思います。

坂本会長 他に何かございませんか。

一つ気になるのが、展覧会の人数を見ていて若林展と江戸の遊び絵展の人数があまり変わらないのですが、たくさんの方に「満足」・「やや満足」と評価をいただいているものの、なぜこのような人数なのかなと。若林は難しいものと受け止められやすい、一方で江戸の遊び絵展は知っていれば楽しいものだと思います。それなのに、あまり来館者が多くないというのはインフォメー

ジョンに関係があるのかと思うのです。宣伝の仕方によっては、これはもともと非常に大衆的なもので、現代美術に通じるような面白さもあるものです。

宮田委員 江戸の遊び絵展を私は友達と見ましたが、2時間でも見切れないくらいの内容がありました。友達が「展覧会の資料又は図録があるといいのだけど」と言っていたのですが、販売されていないとのことで残念でした。

事務局 用意できたのですけれど、すぐなくなってしまいました。

久米委員 ここだけではないのですが、美術館というと敷居が高くて難しいことをやっているのだろうという、一般的な人の概念があり、ちょっと寄って行こうという気になれない部分がどうしてもぬぐえないようです。だから、おつかいの帰りにちょっと寄って行こう、なんか面白そうなことやっているなというように一般の方に受け入れられるような、生活の関連付けの中で呼び寄せるようなもっと俗っぽいアピールの仕方や、いろいろな生活経験を持っている方が多面的に興味を持って下さるような、難しいことではあるのですが、もっとさばけた入口というのを見つけるきっかけがあったらとてもいいと思います。ここの美術館に限らず全国的な問題だと思うのですが、一般の方は美術館はレベルが高くておつかいの帰りによってみようかなというには程遠いと解釈しているようです。

坂本会長 そういう点ではこの江戸の遊び絵は非常に親しみやすいものですよ。だから残念だなと思いました。

久米委員 せっかくいいことやっているのですからね。

坂本会長 誰が見ても面白いと思います。

久米委員 思わず遊びの世界に入ってしまったって、考えを直そうというきっかけが少しでもできればいいと思うんですけどね。時代に合わせて楽しさも多少変わってくるでしょうし、そういうことを選択は非常に難しいと思います。それができれば苦労はないんですけどね。

宮田委員 遊び絵展をみた友達からは「この絵解きって難しいけれど、これを見て昔の人が喜んだっていうことは昔の人たちの資質はすごかったのだろう。今の人たちがわからないものがこんなにわかるのはすごい」という話がありましたね。

坂本会長 現代美術はわけがわからないものという思いの浸透が深いんですよ。

久米委員 だから面白いんですよ。なんだかわからないから面白い。

坂本会長 わかったような気持ちにならないと満足しないということに問題があると思います。

久米委員 今の人は特にそうですよね。なんだかわからないというところに本当の面白さが隠れていると思うのですが、今の人は自分の手でしっかり握らないと理解できたと思わない人が増えています。

- 坂本会長 だから、ミュシャや草間彌生の展覧会なんて人が多いらしいですね。それって一体何だろうって思うんですけども、やっぱりわかったような気持ちにさせる宣伝があらかじめ十分に浸透していて、初めから安心して見に行くわけですね。本当にちゃんと新しい何かを獲得してくるのかというのがわからないと思うのだけど、とにかく満足感はあるんでしょう。
- 久米委員 草間彌生の展覧会などは大行列ですよ。だから、あのようなものをきっかけにしてなんだかわからないけど行って見ようという、その点は成功していますね。
- 坂本会長 悪い言い方をするとポピュリズムというのが、利用価値があるのです。だから、よほどうまく具合に宣伝をしていかないといけないんだろうと思います。そういうのを見ていて、どこまでいいことなのかと思いますね。一方では全くがらがるのところがあるわけですね。
- 久米委員 今の時代は PR の大事さですね。草間彌生さんはかなり PR で持っていきますよね。「まあ一回見てみようじゃないか」というのがほとんどだと思うのですが、行ってみたら「なるほど、私の考えているよりもずっと面白いや」という人の反応の方が多かったと思います。問題はそこですよ。
- 坂本会長 量が相当あるでしょう。量の力もありますね。
- 大久保副会長 この江戸の遊び絵展は質的にもよかったですね。かなり貴重な作品も来ていて、すごいなあと思ったし、また、カタログもいいですね。結局、草間彌生にしても何にしても、ミュージアムグッズというのが非常に魅力的なものを販売していますね。すそ野を広げるためには展覧会の「売り」のグッズを作ればいいですね。予算があつて、他にどこか出してくれるところがあれば、そういった試みをする、その魅力で広がって収入にもつながるのではないかと思います。
- 久米委員 草間彌生さんはグッズを売り出してスポットが当たりましたよね。手元に持って帰れば大変なアピールですよ。
- 大久保副会長 なんにしてもグッズが充実していますよね。埼玉県立近代美術館でやった時も人がものすごく多くて結局入場制限するようでした。
- 久米委員 初めの段階では「まさか」と思ったことが大行列で、あのように反響を及ぼしたということは相当大したものですね。あのようなものは学ばなければいけません。
- 大久保副会長 結局深く考えなくても感性に訴えてくる方が一般の人にとってはわかりやすい。
- 坂本会長 初期のものを見ると簡単ではないが、後の方のまだら点なんかは大衆的です。
- 久米委員 初めは受け入れがたいものがあったけれど、あれよあれよという間に心の中

に入ってきますね。

大久保副会長

ひとの気分を明るくしますよね。

久米委員

そうです。日本人には珍しい存在の方です。

大久保副会長

どちらかというとな向するのが日本人は好きかもしれない。深く読み解いていくとか。

久米委員

「しみじみと」というのが日本人の特徴ですけどね。パッとあのように出ると心を驚掴みにされたような気になります。

大久保副会長

アメリカでの美術を体験した作家ということもあり、制作意欲が解放されているのでしょうか。

坂本会長

話は尽きないし、簡単に解決が見つかる問題でもないことは明らかですけども、いろいろ考えるための手掛かりはあったと思います。

事務局

ぜひ、参考にさせていただきます。

坂本会長

では、平成29年度の事業概要についての説明をお願いいたします。

事務局

[平成29年度事業概要について説明]

坂本会長

何か今の説明についてご意見やご質問はありますか。

大久保副会長

『コレクション交流展 Musubu 本とアート』が魅力的だなと思ったのですが、これはこんな短い期間ではなくてこれこそ企画展としてメインに取り上げるべき展覧会じゃないかなと個人的に思います。カリフォルニアで活躍するアーティストと東京とこの浦和を結ぶための絶好の展覧会じゃないかと。学芸員もカリフォルニアに派遣してもらって調査して、すごく広がりのある展覧会になる要素をかなり秘めているので、ものすごい売りとして大きな予算を取って実現すれば、僕はヒットすると思います。とても魅力のある、広がりのある、またこの館のコンセプトに合った展覧会じゃないかと思ったのですが、学芸員内あるいは美術館内でなぜもう少し膨らませて考えられなかったのかと残念でした。

事務局

これはこちらで企画したというよりも、まずグループの方からお話をいただきました。本来でしたら何年かかけるべきとも考えたのですが、先のことは約束できないという現実があります。コレクション展という予算的にも小さな枠ではあるのですが、まずは来年可能であろうということで、スピードと実効性を先にとりました。やってみてどうだろうといことを優先させたものです。

大久保副会長

一つの試みとして、頭出しという感じでやるということですね。ですが、もっとじっくり調査して実現させた方が良かったのではないのでしょうか。

坂本会長

これはそういう可能性が十分あるのではないのでしょうか。今度、この展覧会をきっかけにして新しい情報が入ってくる可能性がありますよね。そして広げていくということを一応どこかで考えながら企画なさるといいのではない

でしょうか。なかなか本の作家はいないですからね。何人か集まるというのは。

大久保副会長 この期間は、せっかくコレクション交流展とかB・C室での教育利用とか市民大学の美術講座とか多岐にわたっているのだから、短い間にコンパクトに頭出しというのはありかもしれないけど、調査することが何にしても必要ですよ。それで何年間かかけて実現できるものとできないもの、できるのであれば他館で「本のアート」を作品収集のテーマにしている美術館はないのだから、そういった意味ではかなり手ごたえのある展覧会になりそうに思うのですが、これをいかに成功させて次につなげるかということを考えるべき展覧会ですよ。

事務局 この展覧会の難しいところの一つは人間同士のつながりで進行するということです。一部は知っている実績のある作家さんではあるのですが、その作家から結ばれた人たちということで、結んだ先の作品を直に見ることがカリフォルニアであるため難しいところがあります。

大久保副会長 だから行くべきですよ。

事務局 そうですね。しかし、海外出張は簡単なことではなく、そういう意味でも、まずはつながりを作ること。今の時期にチャンスがあるのであればやってみるべきであろうということで始めています。実際にやってみて次へつなげることができればと考えております。

大久保副会長 しかし、その少数の作家を窓口はその作家の知り合いの作家が出てくるので、現地に乗り込んで調査するというのは今後の企画展を考える上でもやってみる価値がありますよね。出張旅費でもなんでもつけて調査すべきですよ。もったいないと思います。

事務局 予算案の検討課題とっております。

坂本会長 今まで海外出張はやったことがありますか。

事務局 市ではございません。美術館連絡協議会で行った例はあるようですが、近年ではそれも例がございません。

大久保副会長 美術館連絡協議会はありだと思います。そのような海外派遣を生かして、うらわ美術館と似通った考えを持つ美術館が3館くらい集まれば巡回展はできると思います。そして、カリフォルニアへ行ってカリフォルニアからヨーロッパへ行かなければならない。すこし頭出しすればいろいろとそこから広がってくると思います。そうすれば、かなり面白い展覧会になると思います。他の館からもアイデアが出るだろうし、美術館の方針が似通った、また親しくしている日本国内の美術館と話し合っって少しずつ進めていくのも手ではないかと思えます。

坂本会長 外国にもドイツなんかで小さい美術館ですが本に特化している美術館がありましたね。

事務局 ドイツは盛んですね。ドイツの学校を出られた作家さんの本の作品は当館の収蔵品でございます。

坂本会長 そのようなものを確実に押さえておくと、今後に役立つかもしれませんね。

事務局 前提として、当館は企画展とコレクション交流展を合わせて年間5本の展覧会を実施します。

坂本会長 5本は立派ですよ。

事務局 学芸員4名で実施しています。展覧会のうち一つは自主企画なので、一人担当ではできないために兼務によるそれぞれの学芸員の負担は大きいものがあります。また、次の年の準備や作品調査・収集もございますので、人数に對しやることが多いです。「大きく」・「海外に」というような遠い地域と大規模展というのは、かなり綿密な計画を立て、着実に実績を作っていないと予算の確保は難しい状況です。それであれば、小さくても実績を重ねていくことで道が開けるのではないかと考え、この交流展を短い期間でもったいなくもあるのですがチャレンジすることにいたしました。確かに、グローバルな時代なので海外の出張旅費も課題であると考えております。

坂本会長 やはり、今はそういう時代になっていますよね。僕は他市のことで一度出張したことがあるのですが、やはりあまり例がないようで何十年かに一度になってしまっています。しかし、行くといろいろな収穫がありますね。

事務局 そうですね。憧れるところはあります。先ほども広報が十分ではないのではとのご指摘がありました。なにぶん手が足りない状況です。

坂本会長 とにかく美術館の予算は減る一方ですからね。国でもそうなのです。理科系が大事で文化はどうでもいいという風潮ですね。

久米委員 オリンピックを前にして配分が偏っているのかもしれないですね。

坂本会長 こういう時代ですから容易ではないですね。

事務局 ありがとうございます。

坂本会長 他に何か御意見や御質問はございますか。

大久保副会長 最近、汐留ミュージアムでマティスとルオー展を見てきたのですが、そこにうらわ美術館からも貸し出しがされていました。そこで、うらわ美術館からの貸し出しをもっと増やしてネットワークをどんどん構築していくのが良いのではないのでしょうか。貸し出しも情報発信の一つですから大事だと思います。ステーションギャラリーのパロディー展などにはこちらからなにも貸し出していませんよね。あの展覧会は種々雑多の雑誌からなにかからいろいろなものが展示されていたわけです。うらわ美術館も「これは美術品だ」というもの以外



の雑誌など、時代とともに消えて行ってしまう消耗品のようなものも買っていくのも良いのではないかと思います。収蔵庫がいっぱいになってしまったり、燻蒸も大変だと思いますが、あのようなものを見るとやはり70年代はかなり歴史的な価値を持ってきていて、60年代はましてやそうですよ。それを考えると、やはり古本屋なんかで過去の雑誌をどんどん買って、それを活かすようにしていくというのも、この美術館の一つの生き方ではないかと思います。

坂本会長 バブル前後に漫画などでも同人の出版物の類がいっぱい出ていましたね。それ以外にも、得体の知れない雑誌というかなんとも言えないようなものも結構ありましたね。あれはどうしたら見つかるのでしょうか。ファッション誌かと思えばそうでもない、変なものがありましたね。

大久保副会長 こまめに神田をめぐるなどして、本当に短い間で廃刊になってしまった雑誌や欠本を埋めていって、一般の人に知られていない書物を紹介することは人が喜ぶ一つの素材となると思います。それほどお金もかからないと思います。大変かと思いますが歩かないとつまらないので。

坂本会長 他に何か御意見、お気づきになったことはありませんでしょうか。  
石上委員 オリピックに関連して文化事業を充実させようという国の基本的な方針があり、予算措置もされると聞いています。予算がついてから何かやることを考えるのではなく、例えば収蔵品を増やすなどあらかじめ何か考え、用意しておくことも大事ではないかと考えますが、そのあたりはいかがでしょうか。

事務局 オリパラに向けて市でもオリピックを推進していこうということで部を設けており、その中で文化プログラムを推進するグループが設けられており、その場には当館の学芸員を派遣し関わりは持っておりますので、今後の動向については把握していこうと思います。今後、市や国などからどのように示されるかが不透明でわからない部分があるのですが、どのような状況になっても対応できるよう先生方の意見も踏まえまして当館としても検討していきたいと思います。

坂本会長 他に何かご意見はありますか。

大久保副会長 「スポットライト！うらわ美術館」という展覧会のタイトルですけれども、これでは何の事だかわからないなと思いました。スポットライトを「浴びる」ということですか、「浴びさせる」ということですか。

事務局 「浴びさせる」です。美術館にスポットライトを当てようというものです。

坂本会長 美術館のコレクションの中のどれかということではなくて、「美術館に」ですか。

大久保副会長 展覧会が浮かんでこないというか、もう少し魅力あるタイトルが考えられればなと思います。

事務局 例えばどのような言葉がよろしいでしょうか。

大久保副会長 一般の人が興味を示すような、くだけた…。展示物とかコンセプトがよくわからないので。バックヤードも含めて全部のものを紹介するということですか。

事務局 バックヤードなどの施設ではなく、よく他館ではコレクション選というようなカタログが作られています、当館はそのようなカタログがないので、紹介するときに顔が見えにくいと課題となっています。そこで、比較的問い合わせが多い作品や、こちらが紹介すべきと考える作品を出していこうと考えております。この企画者が考えるところが、うらわ美術館を地元の方に身近に思ってもらえる、そういう展示をしたいということです。ですから、割ととっつきやすく、「ああ、これか」というような作品を並べつつ、作りこんだストーリー性で見せるのではなくやっつけで考えているところです。うらわ美術館100選などのタイトルも考えたのですが、具体的に考えると100としてしまうことが難しく、「ザ うらわ美術館」となるよう考えたタイトルが「スポットライト！うらわ美術館」です。

大久保副会長 難しいですね。

事務局 代表的な作品について、1点1点掘り下げて鑑賞できるような展覧会を作っていこうということで、数は制限してじっくり向き合ってもらえるような展示にしようと考えております。

大久保副会長 それにあわせたカタログを作るということですね。

事務局 本展ではカタログを作るのではなく、鑑賞ボランティアの育成を考えておりました、そちらに準備労力を割くもので、カタログの作成はもう少し先にと。

坂本会長 鑑賞ボランティアというのは絵の前で説明をしたり、誘導したりするのですか。

事務局 そうです。来館者の思いを引き出す形の鑑賞ボランティアを考えておりました、初めての試みです。

坂本会長 それはとても面白いと思います。

事務局 ラインナップを凝るというよりは、ここにいかに来ていただくか、深くかかわってもらえるか、うらわ美術館の作品はこういうのがあるのだということをいかに浸透させるかという考えのもとに企画しているので、展覧会のタイトルは難しいところがあるのですが。

坂本会長 人があまり来ないと鑑賞ボランティアも働きようがないですね。

事務局 そこでバスをチャーターして学校を招待するものです。

坂本会長 なかなか難しい問題はあるけれども、鑑賞ボランティアという存在の利用の仕方は面白いと思います。

大久保副会長 養成するのは大変ですけどね。

坂本会長 押し付けになってしまってもよくないし。

事務局 手間のかかることなので、カタログを作るのならボランティアの養成の方を  
やってみよう。限られた人数と時間ですが、少しでも新しい試みを加える  
ように心がけています。

坂本会長 今の説明について、いかがでしょうか。

石上委員 タイトルをベタにするなら「うらわ美術館コレクションベスト10」とかの  
ほうがわかりやすい気がします。「ベスト10の作品をじっくり鑑賞してい  
ただけます」のようにしてみてもは。

事務局 何点あるという数字はわかりやすいですかね。

坂本会長 確かにね。むやみに多くない方がね。

事務局 一方で、量で満足するということもあるので、こちらは企画展扱いで予算  
がかかっていることもありコレクション展のように無料にはならないので、  
作品数を絞り込みすぎても足りないしと思い、憂慮するところではあります。  
でも、数字が入っている方がキャッチーでわかりやすいということもありま  
すので、再考します。

坂本会長 他に御意見はありますか。なければ、本日は本当にいろいろな御意見をいた  
だいてありがとうございました。それでは、進行を事務局へお返しいたしま  
す。

副館長 これで平成28年度第2回うらわ美術館協議会会議を閉会いたします。本日  
は、長時間にわたり御協議をいただきまして、誠にありがとうございました。